

マムシグサの仲間は、その名前や茎の模様の気味悪さなどから一般に嫌われがちな植物ですが、日本列島で多様に種分化しており、一部の植物屋さんには人気があります。また栄養状態が良くなると、雄株から雌株へ性転換するという面白い性質をもつことでも有名です。

マムシグサの仲間は、地域ごとにさまざまな固有種が分布しています。飯田周辺では、スルガテンナンショウとヤマザトマムシグサの2種の個体数が多く、里山で普通に見られます。



上:ヤマザトマムシグサの花 ヘルメットのような仏炎苞(→)が特徴
下:スルガテンナンショウの花と花のあとの葉(斑入) 花の付属体(→)の先が丸く、曲がっているのが特徴

新緑の林縁で咲くヤマザトマムシグサ
スルガテンナンショウより遅く、5月中下旬に花が咲く

咲き始めのスルガテンナンショウ
芽吹いてきたときは茎のまだら模様がよく目立ち、マムシを連想させる
4月中下旬に花が咲く